

(3) 農林水産省生産局長賞等受賞者概要

【農林水産省経営局長賞】

団体名 有限会社いずみの里
代表者 久保充己
所在地 大阪府

〔表彰のポイント〕

農家女性による学校給食への食材供給、都市住民との交流、伝統の味の伝承に貢献

〔取組の概要〕

○商品開発と量販店への販路の拡大

マーマレードから始まった加工品の商品化も現在では11品目に。安定した販路として大手量販店との提携に取り組み、現在では15箇所販売している。

○市内産米で米粉パンを商品化

市内産米を使った米粉パンづくりの研修に取り組み、平成16年4月から朝市で販売。毎週約400～500個、年間約2万個を製造し、市内保育園児のおやつにもひきあいがある。

○加工品を学校給食に供給

「子供たちに本物の味を伝えたい。」という思いから、市に働きかけ、市内小中学校11校にみそを供給、保育園の給食食材として加工品を供給するほか、給食向けの「大阪エコ農産物」を生産している。

○本物の味で「食育」活動

学校給食にみそを使ってもらうために、栄養士を対象にみそづくり講習会を開催。これを契機に平成14年度からは毎年、小学生にみそやマーマレードづくりの体験指導を実施し、各団体の農産加工や郷土料理体験教室の活動にも講師として参加。府内の農家女性の食育活動のモデルとなっている。

○地域農業のPR、理解促進に貢献

平成3年から、大阪府中央区の住民との交流会に毎年参加。大阪市内で和泉市の農業をPRしている。近隣市町女性団体等との交流会など多くの機会を捉えて地域農業のPRを行っている。



【農林水産省農村振興局長賞】

団体名 碧南市農業活性化センターあおいパーク
代表者 碧南市長 永島卓
所在地 愛知県

〔表彰のポイント〕

「農業と食と健康」をキーワードに、産直市を中心にレストラン、体験農園、市民農園等を運営

〔取組の概要〕

○活動の理念

「大地の豊かな恵みに感謝し、農業を生命産業として位置づけ、農業と食と健康を基本とした体験交流の推進」

○生産者所得の向上、消費者サイドの応援団

産直市「あおいパークもぎたて広場」は、平成10年当初60名余りの部会員で開業（現在は285名）、年間500万円を売り上げる農家も14戸ある。また消費者サイドの農業応援ボランティアは、季節的な農作業の応援、農家との交流活動を継続的に実施し、あおいパークがこのコーディネーター役を担っている。

○持続的な取組

施設利用者の声を施設運営に反映させ、消費者ニーズにあった運営方法を検討し、改善を図っている。誰でも参加できる「園芸講座」、郷土料理の「料理教室」、「手作り味噌教室」、「ソーセージ教室」、「ガーデニング教室」など、地元農家と密着した事業を展開している。

○「顔が見え、話ができる」取組

売り場は出荷者の顔写真の掲示とバーコードに生産者の氏名を記入、また農家の中には、日に2、3度売り場に立ち寄り、消費者と言葉を交わす者も増えてきている。四季を通じた数々のイベントを実施し、消費者との対話ができる工夫もしている。

○地場農産物の理解の促進

栽培方法についてのコメントや調理方法について、イベントや講習会の際に配布している。県の地産地消運動である「いいともあいち運動」に積極的に参加している。



【農林水産省生産局長賞】

団体名 農業組合法人道の駅とわだ産直友の会
代表者 豊川総一
所在地 青森県

〔表彰のポイント〕

「地産地食」を理念として消費者とともに歩む直売所

〔取組の概要〕

○『地産地食』の拠点

道の駅とわだ「とわだぴあ」のオープン（平成13年）に合わせ開設、各部会（9部会）は月1回の定例会を開催、技術のレベルアップと良品生産に心がけている。

○消費者から期待される責任ある販売

トレーサビリティや農薬適正使用、新種苗法、食品衛生法等の改正前研修会を実施し、法令遵守の徹底を図り、また交代で売り場を巡回し、不正表示等をチェックしている。特別栽培農産物は、現在8名が認証を受けている。

○販売額の増加と地域農業の振興

直売所の活動は、作付面積、販売アイテム、販売額の増加に結びつき、特に女性の起業（食品製造業営業許可93件）、家族経営協定締結（29件）等、働く機会と働く場の改善となっている。

○各種イベント開催等による消費者交流活動

年間を通したイベントでは、その月の行事の由来と「食」との関わりを伝え、特に子供達には、食べものの「旬」について教えている。また、加工品は「消費者の声を聞く会」を企画し製品作りに生かしたり、加工技術を持った会員9名がインストラクターとなり、消費者の加工体験を受け入れている。

○管内直販活動のリーダー

管内直販活動23団体のネットワーク化にあたり、「友の会」代表理事はその会長に就任、地産地消活動のリーダーでもある。



【農林水産省生産局長賞】

団体名 のら工房農直部会
代表者 部会長 小林勇
所在地 和歌山県

〔表彰のポイント〕

JA農直部会として4店舗を経営、それを基盤に市内全小学校に地場産米の供給

〔取組の概要〕

○売上額年間5億円

JAわかやまは平成8年にのら工房1号店を開業し、現在、4店舗が営業している。新鮮で安心できる農産物の供給拠点として年間売上額5億円を越え利用者は44万人以上となり、のら工房向け生産者も増し地域農業への貢献も大きい。

○POSシステムを導入し事務の軽減、店舗間の商品の調整とともに出荷者が販売状況を電話で確認できるシステムを整備、品物の補充がすぐに可能であり売上げの増加につながっている。

○学校給食への食材の提供

平成16年度から、和歌山市内の全小学校（52校、20,541人）に市内産の米「キヌヒカリ」を供給するとともに、モデル校として2校で地場産の野菜や果物を使った給食を実施している。学校への食材供給により、学校での食育推進への波及と地域農業への理解促進が図られている。

○旬の野菜を使った料理講習会

地元の農産物を広く知ってもらうため、商工まつりに専用ブースを設け、消費者へのPRを行っている。またJA女性部会が開催する「あじわいフェスタ」では、のら工房農直部会の女性達が考案した旬の野菜を活用した料理発表会にも参加、普及性のある料理については料理レシピで情報提供している。



【農林水産省生産局長賞】

団体名 星の郷青空市株式会社
代表者 張谷和弘
所在地 岡山県

〔表彰のポイント〕

昭和63年、農業後継者の中古テント一張りの無人市から出発、現在、年間売上額4億円超の直売所として都市住民との交流拠点の顔。

〔取組の概要〕

○県下有数の農産物直売所

不利な中山間地域の条件を逆にとり、農業後継者13名で「星の郷青空市」を小さなテントひとつで開設し、平成6年に星の郷青空市株式会社とした。「美星の風をあなたのもとへ」をキャッチフレーズに、鮮度、安さ、品揃え、地場産にこだわり入り込み客40万人以上、年間売上約4億円を安定的に確保している。

○地域農業・農村活性化に貢献

青空市の登録出荷農家戸数は、現在221戸、高齢者、女性や小規模経営者を中心に少量多品目を重視、1回当たりの出荷制限（50個まで）をしている。

○農業の6次産業化に貢献

平成10年度に農産加工施設を整備し、みそやジャム等地元農産物を材料とした6次産業化による開発・販売を開始し、現在、28種類、年間2,500万円の売上げがある。特に「そばカリント」は、名物となり1,500万円を売り上げている。

○都市（消費者）との交流・農業体験

近隣の直売所（12団体）と連携し「合同青空市」や研修会を開催、代表者はその会長を務める。また年2回実施している手前みそづくりやお餅づくり体験を実施、さらに生協とタイアップし、植付から栽培管理、収穫、加工・調理、食べるまでの体験交流活動も実施している。

